

様式

技術名称	没水型港内長周期波対策構造物	技術の分類	工法	NETIS登録の有無 (有場合はNETIS番号)	KTK-120004-A
会社名等	株式会社不動テトラ	担当者	松本朗 (マツモト アキラ)	連絡先	029-831-7411
技術の概要	本技術は、天端を平均的潮位に設定したマウンド形式の長周期波対策工である。従来の天端が海水面から干出する捨石マウンドの場合、長周期波の消波には一般に構造物幅30m以上が必要とされ、断面の小型化が課題であった。没水型の場合、消波性能が良好であるため、構造物のサイズを小さくすることが可能となった。		添付資料	パンフの有無	無
				その他の資料	発表論文
技術の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・長周期波の反射率を従来より低減することができるため、所望の反射率に対する所要構造物幅を縮小できる。そのため水域の狭隘な港湾および漁港においても適用が可能となる。 ・構造物から航路までの距離が従来より小さくでき、船舶航行の安全性が向上する。 ・一例として、水深10m、長周期波の周期60秒、対策工法勾配1:1.5、所望の反射率0.86のとき、所要構造物幅(静水面上の幅)は干出型(被覆石二層)約30mに対して没水型(8t型消波ブロック二層)約16mであり、工費は約7割に縮減できる。 ・上のケースで、法先まで含めた全幅は、従来の干出型約45mに対して、没水型約31mとなり、航路から構造物までの距離が14m増加する。 	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・特許出願中 ・添付資料(土木学会での発表論文) <ul style="list-style-type: none"> (1)H24年度海洋開発シンポジウム (2)H24年度年次学術講演会 (3)H25年度海洋開発シンポジウム(投稿中) (4)H25年度年次学術講演会(その1)(投稿中) (5)H25年度年次学術講演会(その2)(投稿中) 		